

ほゆう

会報 8月号

平成24年(2012)8月 通算220号
 発行/北総歩こう会・〒277-0841
 柏市あけぼの 2-9-20 B902
 TEL:FAX 04-7145-1620



行事の案内板

お願い:北総歩こう会の行事に参加される方は お弁当を出発前に必ずご用意下さい

★七廻道水辺ウォーク 鮭の来た川～大堀川 12km (コースリーダー 軍地恒四郎)

主催/NPO 法人千葉県ウォーキング協会 主管/北総歩こう会

日時/9月16日(日)9時00分 団体歩行 参加費/参加者全員一律300円

集合/手賀沼公園 (JR線我孫子駅南口徒歩10分)

解散/14時00分頃 柏西口第一公園 (JR線・東武線柏駅へ徒歩7分)

コース/手賀沼公園～船戸の森～北柏ふるさと公園(WC)～大堀川防災公園(WC)～高田近隣センター(昼食・WC)～うなぎ水切場～新堤橋(橋の上から鮭の孵化場所の確認)～しこだの森～柏西口第一公園

○ みどころ 6年前、柏市内を流れる大堀川で鮭の遡上が確認され、話題を呼んだ。その後も、6年前ほどではないが鮭の遡上は続いている。大堀川の鮭は利根川、手賀沼を経て大堀川を遡上してきたと考えられるので、近年整備された大堀川沿いの遊歩道を我々も遡上し、新堤橋の上から鮭の孵化場所を確認する。

★9月例会 都内・深川の親水公園めぐり 14km (コースリーダー 中山 弘)

日時/9月26日(水)9時30分 団体歩行 参加費/CWA加盟団体無料・他協会及一般300円

集合/江戸東京博物館前 (JR線両国駅徒歩3分)

解散/15時00分頃 錦糸公園 (JR線錦糸町駅へ徒歩3分)

コース/江戸東京博物館～森下文化センター(のらくろ館・WC)～小名木川～大横川～仙台堀川(WC)～横十間川～猿江恩賜公園(昼食・WC)～大島緑道公園～亀戸天神(WC)～錦糸公園

○ みどころ 懐かしい「のらくろ館」を見てから昔、水路として縦横にめぐらされていた深川の4本の運河と親水公園の遊歩道を歩きます。午後は亀戸天神社に寄って錦糸公園まで歩く下町ウォークです。

★10月平日ウォーク 鎌ヶ谷の森を歩く 13km (コースリーダー 遠藤啓一)

日時/10月3日(水)9時00分 団体歩行 参加費/会員100円・CWA200円・その他300円

集合/道野辺本町公園 (東武野田線鎌ヶ谷駅徒歩3分)

解散/14時30分頃 市川観賞植物園 (北総線大町駅へ徒歩10分・新京成線くぬぎ山駅へ徒歩20分)

コース/道野辺本町公園～丸山三丁目ふれあいの森～丸山ふれあいの森～東部学習センター(WC)～手通公園～鉄道連隊橋脚跡～東道野辺ふれあいの森～サミット(WC)～丸山市民の森～根頭神社～市民の森(昼食・WC)～八幡春日神社～ファイターズタウン～市川観賞植物園

○ 鎌ヶ谷市内に残された森を巡り、森林浴を楽しんで頂きます。途中では新京成線の基になった鉄道連隊橋脚跡を訪ね歴史ある根頭神社や八幡春日神社にお参りします。そして日本ハムファイターズの球場を裏手から見て鎌ヶ谷カントリーコースの脇を歩き、プレイを見ながら市川観賞植物園で解散です。

★10月例会 江戸川を歩く(自由歩行:36km・団体歩行:11km (コースリーダー 中村義久)

日時/10月28日(日)36kmコース:7時～8時受付順出発・11kmコース:9時受付

参加費/CWA加盟団体無料・他協会及一般300円

集合/36kmコース:JR線松戸駅西口ペDESTリアンデッキ・11kmコース:松戸駅西口公園(松戸駅徒歩3分)

解散/36km:12時～16時ゴール受付 松戸駅 11km:14時頃 浅間神社(流鉄線流山駅へ徒歩5分)

コース/36km:松戸駅～江戸川土手～葛飾橋～玉葉橋～江戸川左岸～松戸駅

11km:西口公園～江戸川土手～赤城神社(昼食・WC)・光明院・一茶双樹記念館・近藤勇陣屋跡・閻魔堂・常与寺・浅間神社(解散)～流山電鉄流山駅へ(案内)

○ みどころ 江戸川をてくてく歩くのもよし! 知ってました?流山の名所の由来、流山が県庁所在地だったこと、千葉大学発祥の地だったこと等々・・・一挙に解決しますよ。

柏市ウォーキングネットワーク特別行事

【ご注意】この行事は北総歩こう会主催行事ではありませんので、完歩証・IVV等はありません

- ☆ 協賛行事 歩いてみよう！柏の七福神の候補地巡り 約5~6km (雨天決行)
- 日時／9月28日(金) 9時00分 団体歩行 参加費／一律100円(傷害保険&資料代)
- 集合／JR柏駅東口ペデストリアンデッキそごう前 解散／同じ柏駅12:00頃
- みどころ／よそにあって柏市に無い「柏の七福神」が出来そうです。現在候補にあがっている、香取神社・諏訪神社・柏神社・長全寺など古くから地元の信仰の対象になっている神社仏閣を巡ります。



ふあみりーウオーク

集合時間は毎回9:00 解散は12:00頃

☆ 8月はお休みします 参加費:会員100円・会員以外200円

☆ 9月15日(土) 彼岸花を探して(祖光院)約7km
(担当:早川 進)

集合:JR武蔵野線新八柱駅 解散:新京成線常盤平駅

☆ 10月20日(土) 我孫子の古墳めぐり 約8km
(担当:中村義久)

集合:JR線我孫子駅北口 解散:JR線天王台駅



7/21 広幡八幡神社を参拝→

平成24年7月4日 平日ウオーク



『東京童謡散歩』を担当して

コースリーダー 石原洋二

東京・上野、西郷隆盛の銅像の下、今はなき聚楽ビルの地下に古本屋があった。そこで見かけたのが「東京童謡散歩」という本。これにヒントを得て、ネットで検索したところ多くの童謡にまつわる碑が都内にも沢山あることがわかった。これまでもそのなかのいくつか、たとえば渋谷長谷戸小学校の「夕焼けこやけ」の碑や飯田橋筑戸八幡神社の「金太郎」の碑、渋谷代々木公園横の「春の小川」の碑などなどは知っていたが、これらを結びつけることまでは考えていなかった。今回コースの決定にあたって、「金太郎」・「浜辺の歌」も回るつもりでいたが、白山にあった「浜辺の歌」碑が、京北学園の移転と共に赤羽に移ってしまったため、これらの二つはコースから外した。ちなみに「金太郎」の碑の位置は、地図に落としてある。



護国寺歌碑・からすの赤ちゃん見学

今回のタイトルは、「童謡のふるさとを歩く」としたかった。たとえば、「春の小川」の碑は、作詞家の高野辰之が



団子坂を肅々と下る参加者の皆さん

代々木河骨川のあたりを散歩しながらその詩の着想を得たところとして建てられており、また「たきび」も中野の新井薬師あたりの民家にその痕跡が残っている。秋深い頃歩けば、落ち葉を踏むかさこそという音が心に沁みるようだ。しかし今回回ったところは、いずれも作詞者・作曲者ゆかりのお墓・顕彰碑などばかりで、ふるさととは程遠いところだったので残念である

最後になるが、「夕焼けこやけ」の「こやけ」ってなかに、と疑問が生じた方、次の本をお読みになることをお勧めする。[平凡社新書・上田信道著『謎とき名作童話の誕生』]。今回歩いた「夕焼けこやけ」は勿論、「鳩ぽっぽ」「かなりや」などの制作にも触れられている楽しい本である。

(コース担当:軍地・山口)

歩いて知った英国の歩行文化 (1/5)

北総歩こう会顧問 黒河内 尚

はじめに

今から 50 年前にイギリスの労組要求により実現したと言われる「パブリック・フットパス（政府公認歩行者専用道路）を歩いてみたくて、2001 年 7 月にロンドンを訪れた。準備も予備知識も無い一人ウオーキング。まずはわかりやすいロンドン・テムズ・フットパスで足慣らし。ウエストミンスター駅からさしずめ親水公園といった河畔遊歩道、川沿いから眺めるロンドン観光といった感じで寄り道、道草を食いながらタワーブリッジで折り返し、テムズの両岸 15 ㎞を 5 時間かけてピカデリー・サーカスにたどり着く。

別の日、列車でケンブリッジへ。駅のキヨスクで地図を買う。靴の足跡模様の点々の列がフットパス。地図を頼りに中心街を過ぎた川沿いに設定されたフ



ットパスを右に折れる。川幅 30 ㎞ほどで兩岸の楡の木立が美しい。対岸にカレッジのボート・クラブハウスが立並ぶのを横目に 5 ㎞ほどで車道。どこでもそうなのだが、車道との境には必ず木柵があり、フットパスと書いた標識と注意書きがある。このフットパスは人のほかに自転車も通れるようだ。車道を越えて川と別れ、芝生に囲まれた一本道を 30 分ほど進むと二股に分かれている。右の牧場への道を選ぶ。一直線の道の突き当たりで跨跣橋を渡ると牛の群れに出会う。牧場の中である事に気が付く。フットパスと分かれて車道を駅に戻る 20 ㎞。

こんな調子で、コッツウォルズのなだらかな田舎道、ドーバー

では白い壁の崖上道。レガッタで有名なヘンレーのレース・コースもフットパスだった。ストラドフォードではシェイクスピアを偲び花園に遊び、バースの丘陵の家並を眺めたりして、都合 5 日間、わかりやすい標識のお蔭で迷子にならず、パーマネントコースの元祖とも言える道を楽しんできた。

日本にも素晴らしい風景は随所にある。イギリスのように全国各地に歩行者専用道路が出来、安心して仲間と連れ立って歩けるような時代を早く実現したい。それには国民すべてをウオーキング愛好者にしなければならない。

その後、2005 年 5 月と 2006 年 7 月のフットパス踏査隊に参加したので以下、所見を述べる。

1. 英国の歴史のもとで生まれた「歩く権利法」と「歩行専用路」パブリックフットパス

旅とは居住地を離れた土地の、風土、文化に触れる事である。そして目的地の歴史、文化の予備知識を得ておく事によって一層心に残る旅となる。

英国の歩く旅ともなれば、当然パブリックフットパスを歩くことになる。そこで先ず英国と言う国のかたちとパブリックフットパスの由来について触れることにする。

英国はヨーロッパ大陸の西北に位置する島である。アジア大陸の東に張り出した島、日本列島より少し狭いが似たポジションである。ヨーロッパの歴史に登場するのは 11 世紀、フランスのノルマンジー公ウイリアムが十字軍を引き連れてキリスト教布教の名目で、ドーバー海峡を渡り、瞬く間に全土を征服してしまう。ウイリアム王朝が成立し、征服の論功行賞として爵位と領土支配権を部下に与え、ウイリアム征服王は統治を彼らに任せ、フランスに帰国してしまう。この国はそのような形のまま近代に至る。19 世紀までは、この国はほとんど王家を含めた貴族の私有地で厳密な階級制度で支配される世界であり、ルネッサンスも宗教革命も貴族の中での出来事ではなく貴族天国が続いた。王位継承問題からフランスとの百年戦争が終って、ようやく貴族の権威に影が差して来る。18 世紀半ばにこの国で興った産業革命は、19 世紀にかけてこの国は勿論、世界の社会の仕組みに変貌を与え、階級制度は崩れ、資本主義社会を生む。新興勢力であるブルジョア、



そして労働者階級が出現し、貴族階級と対立する勢力となる。



産業革命は、すべて領主、貴族の占有していた『みち』にも革命をもたらす。蒸気機関車が開発され、自動車が横行するようになれば、国として貴族の土地を買い上げ、鉄道が敷かれ、ハイウェイ、車道も整備される。貴族は資本主義社会では土地が財産であることを認識すると同時に、土地の封じ込めによる通行の締め付けを強化する。一方労働者は、工場、仕事場へ通わなければならない、道が必要となる。「みち」に関して、地権者と利用者の利害が対立し、20世紀に入ると土地の占有権と利用権の対立は激しさを増してくる。さらに第1次大戦後、世界を覆った不況は英国にも及び、道具も要らず、国民の間に、何時でも手軽にアウトドアライフが楽しめるウォーキングのブームが到来し、一般市民による道の通

行権、利用権の主張が一段と強まってくる。

このような時代を背景に、1932年「キンダースコット事件」が起きた。産業革命の発祥地とされるリバプールの労働組合の呼び掛けで、狩猟場の雷鳥保護のため立ち入り禁止したキンダースコット丘に、1932年4月24日約400人が登り、管理人と乱闘沙汰となり、首謀者6人が逮捕され、6ヶ月の禁固処分を受けると言う事件である。マスコミはこぞって労働者に味方し、世論も歩く権利を主張して後押しした。そして同年「歩く権利法」が制定された。

この事件がきっかけとなり、1935年にランブラーズ協会（注：ランブラーズ・・・歩く人）が設立され、歩く権利の保護に乗り出すことになった。また、この事件をきっかけに、キンダースコット丘の麓

ディープディストリクト公園を起点とする初めてのロングディスタンスナショナルトレイル「ペナンウェイ」がパブリックフットパスとして整備設定され、英国各地のフットパスも次々と公認されることになる。以降ウォーキングが盛んになり、英国民を代表するレジャースポーツとして発展し、今日に至っている。



しかし、資本主義の下における地権者の財産保護権と、私有地にあるフットパスを歩く権利と言う、相反する権利についての争いは延々と続き、法廷に持ち込まれることが多くなるが、通常歩行者が多ければ、慣習を重んじる英国法の下で、歩く権利が勝訴する判例が多く、ついに2000年、ブレア首相のサインにより「人には歩く権利があり、地権者はこれを保護する義務がある」つまり歩く権利は地権に優先するという国法が改めて国会承認を経て施行されるにおよんだのである。〈つづく〉(2006.09.14記)



平成 24 年 7 月 15 日 月例ウオーク

『取手の宿とビール工場見学』を担当して

コースリーダー 遠藤啓一

今年 2 月の「鬼平とスカイツリー」以来二回目のリーダーを務めることになりました。コースは 10^キと 15^キは昨年 12 月にすぐ決めることができました。問題は工場見学の人数制限です。100 名以上は対応難しいので 2 回に分けて間隔を空けてと依頼がありました。何人参加があるか天気によっても違います。今更迷ってはいただけません。先着順でショート 10^キは 1 時 30 分の工場見学・レギュラー 15^キは 3 時からの工場見学で企画書を書きました。発表した後で会長宅に「何時に行けばよいか?」「事前申し込みでないのか?」問い合わせが多数あり、他の方からも「先着順で大丈夫か?」との質問がありました。今更事前申し込みに変更も出来ず悩みました。今回は飲むのが主でなくウオーキングが目的と割り切り、当日の受付の順番が公平になることに頭を悩ました。サブリーダーの林・菊池・若月・早川・九嶋氏と 2 回目の下見でもその事で 30 分ぐらい打ち合わせをしました。



取手駅西口・出発前準備体操

当日は役員に通常の 1 時間前でなく 1 時間 30 分前の 8 時に集合を掛け、申し込みを早くする事としました。当然私はリーダーですので 7 時 45 分駅に来ましたがすでに同じ電車で 2 名の方がいらっしゃいました。9 時 10 分には予定していた 200 名となり、その後の参加者（役員を除く）54 名の方はウオーキングのみの参加と断りお願いしました。今回は 276 名と多数のご参加、有難う御座いました。

途中の人数確認でキリンビール工場より各コース 120 名まで受け入れ可能の話が出ました。レギュラーコースは 121 名で大丈夫ですが、ショートコースの参加者が多く 154 名と多く全員は入れません。もちろん見学しない方もいらっしゃいますが、一人でも多く見学出来ないかと会長と役員と相談し、歩きながら考えました。帰る方を分けてその中で希望者を募り、じゃんけんで 5 名の方を選びました。見学出来なかった方にはこの紙面を借りてお詫び申し上げます。また I V V が足らず一部の方には 15^キの I V V を主催者判断でお




利根川の土手に行く

渡ししました。3 班に分ける際に手間取り、炎天下にお待たせしたことを合わせてお詫びします。ショートの反省を踏まえ、レギュラーコースの受入れはスムーズに何とか出来ました。暑い中ご参加頂き有難う御座いました。これに懲りずまたご参加ください。

(コース担当：林・菊池・早川・若月・九嶋)

新入会員紹介

印西市の日隈悦子さん 柏市の堀内秀雄さん
 柏市の堀内周子さん 我孫子市の角田幹夫さん
 松戸市の富永義孝さん
 先輩会員の皆さん どうぞヨロシク！♪

おめでとう 

2012 年 5 月 31 日現在 会員の認定者

22000 km 鈴木 好次さん

地球一周 4 万キロを目指して頑張ろう♪♪

☆ 平日ウオーク 10 回完歩者名

7/4(水)の平日Wでの 10 回完歩者は 11 名で、昼食会場の日暮里公園で表彰されました。

林 義治さん(会員) 柴田 契さん(会員)
 佐々木澄子さん(会員) 吉竹 覚さん(会員)
 太田好美さん(会員) 渡辺哲郎さん(会員)
 和崎悦子さん(会員) 早川美代さん(会員)
 岩波 勝さん(利根歩) タイラヨシコさん
 久保田義貞さん(船歩) (一般)
 頑張りましたね おめでとう！！

ほゆうのひろば

地球二周 藤栗毛



流山市会員 和田 武年

2012(H24)年4月5日、私は地球2周目(8万キロ)を達成した。1周目の達成は2001(H13)年5月15日で会報ほゆう92号にご報告申し上げているが、その時の内容は次のようなものであった。

1985年4月、46歳の私は人間ドックの結果に打ちのめされていた。東京女子医科大糖尿病センターに回されてセンター所長の先生に「貴方は早く発見されて良かった。今の段階では薬の必要が無いし、今後の養生次第ではかえって長生きします。そのためには①減量(当時80kg)②暴飲暴食の厳禁③早寝早起き④適度の運動の4つを守りなさい」と、「糖尿病センター所長で医者である私も糖尿病患者で毎日1万歩を目標に歩いています。貴方も歩きなさい。」と言われたのがウォーキングを始めた動機だった。と書かれている。



マレーシアの学生と

最初の歩きは一人でボツボツと歩いていたので距離の記録が無い。利根町歩く会の存在を知って、そこから日本歩け歩け協会(現JWA)のウォーキングダイアリーに記入し始めたのが1989(H1)1月1日からで、1周目の達成に12年と5ヶ月を要している。今回の2周目の達成には11年と少し短縮されている。2周目の達成が今回は我孫子市在住の会員であり友人の渡辺肇幸氏と偶然一緒になった。ちなみに彼のブログを読むと「1周目に15年・2周目に10年あわせて25年費やした。記録の条件①起床してすぐ万歩計を付けての記録は除外する②はっきりとこれから歩きに行く時の記録のみである。③1回の距離が1km以上であること。禅僧が毎日座禅をするように、私は毎日歩く禅を心がけている」などと書かれていた。彼の①～③の条件は私の考えと全く同じである。私の場合③の距離が2kmと少し厳しくなっている。

少し話が横道にそれるが渡辺氏は私より2歳若く国際人である。彼が国の機関から頼まれてマレーシア国の若者教育に国際貿易の講師として派遣されている時に、「還暦記念としてキナバル山(標高4095.2m)に登りました。和田さんも挑戦しませんか？」との手紙を頂いた。私が手紙を受け取ったのが2000年6月アルゼンチンからアメリカにトランジットする途中に立ち寄ったペルー国のリマの宿である。あらかじめ妻に伝えてあったので日本から他の荷物と一緒に彼の手紙も届いていたのだ。その場で「その挑戦は受けて立つよ」との葉書を書いて米国へ出発する途中、リマの空港で投函したのだが怪しげな筆記で果たしてマレーシアの彼まで届いたかは未確認である。



入山カード

「妻からの 手紙受け取り マレーシア 友人に書く 手紙懐かし」

「友の便 キナバル山に 登りしと 還暦祝いを 自慢しており」 2000年6月30日

「久しぶり 日本の臭い受け取りし リマの宿にて 娘と二人」 ペルー国リマにて詠む

彼には会報ほゆう84号に「還暦祝いはキナバル山に」との投稿を頂いている。その後、私も2002(H14)年4月11～16日にキナバル山には登ってきた。

糖尿病をきっかけに歩きの世界にのめり込んで1985年(糖尿病の医者から歩きなさいと言われた年)から数えると早



一枚岩に登る仲間達

や27年になる。未だに薬のご厄介にならずに済んでいるのは、歩け運動のためであるのは間違いない。それにもう一つ、所長先生の言われた、「今後の養生次第で長生きしますよ」の言葉である。「俺はいつも糖尿病と同居しているんだ。同居人を怒らせるような生活をしてはいけない」と心に決めているが、好きなお酒が入るとこの戒めをつい忘れてしまい、後で手厳しく叱られる事がある。

さて、地球1周3回目に向かってスタートを切ったが、現在の年齢を考えると良くて半周だろうか？

以前から考えると随分と行動範囲が小さくなった事に気付く。気力と好奇心が小さくなっているのだ。これが年齢と言うものだろう。これからはスローライフでやっていこうと思う。(H24.07.07記)

【編集後記】 顧問の黒河内氏から頂いた原稿を長い間手元に温めていたが、ほゆうの仲間にもどうしても紹介したくて黒河内氏宅に資料をお借りするためにお伺いしたのは4/9だった。やっと編集が終った。 -歩遊人-

編集担当 和田 武年 〒270-0121 流山市西初石 6-187-43 Tel・Fax 04-7154-0170